



企業訪問レポート

地域社会に貢献する運輸業のオールラウンド企業

株式会社愛和 奈良県王寺町

「安心・安全・快適の輸送」をテーマに、トラック、バス、タクシーの3事業にわたる認可事業者となるなど、意欲的に多分野に事業を展開している『株式会社愛和』。

「事業を通じて地域社会に貢献して奉仕し、従業員が各々の人格を形成し自己の幸福を追求すること」を社是とする同社は、これまで事業を育ててもらった地元地域への恩返しや、品質重視の徹底、従業員満足の向上を常に念頭に置きながら、運輸業のオールラウンド企業を目指している。

会社概要



会社名：株式会社愛和
所在地：奈良県北葛城郡王寺町畠田 4-374-1
電話：0745-32-1110
FAX：0745-32-7000
創業：1973（昭和48）年3月
設立：1983（昭和58）年4月
代表者：代表取締役 萬喜 忠雄
資本金：1,200万円
従業員：110名（グループ会社含む）
事業内容：道路運送法による自動車運送事業、旅行業法に基づく旅行業、太陽光発電システム販売等
URL：<http://www.aiwa-kotsu.co.jp/>



常にピカピカに清掃され磨き上げられた同社の最新型トラック

商売の原点は実家の青果店

創業者の萬喜忠雄社長（64歳）が、実家の家業である青果店の商品配達の延長で荷物輸送の依頼を引き受け始め、1973年に運送業「萬喜商会」を創業したのが同社の起こり。「実家で多くのお客様とやり取りし可愛がっていただいた経験とそこで得た教訓が、今の当社の経営に非常に活かされている」と萬喜社長は当時を振り返る。

83年には愛和運輸有限会社として法人化し順調に事業が伸展する中、91年のバブル崩壊が起こる。その後の長引く不況の中でも同社の経営は安定していたが、一方で世間は沈滞ムードに沈んでいた。

不況の中での前向きな挑戦

こんな時こそ前を向いてチャレンジし“人を運べる会社”になろうと考えた萬喜社長は、貸切バス事業の許可を取得し、99年にバス事業部の“愛和交通”を設立した。従業員に対し、不況の中でも会社が前向きに進んでいることをメッセージとして示すための、固い決意に基づく挑戦だった。

翌2000年には、シャープの太陽光発電システ



多分野に展開する同社の事業。トラック40台、バス17台、タクシー21台を所有。太陽光発電パネルの累積販売数は約5,000戸に達している。

ムの販売を手掛けるソーラー事業部を設立。顧客に対し最後まで責任を負うために、太陽光パネル設置工事も自社で行えるよう組織体制を整えた。03年には大型倉庫を設立し、倉庫で加工を施した荷物を輸送する流通加工サービスも手掛けるように。05年には「お客様の身近な足となり地域に貢献できれば」とタクシー事業も開始した。

これらの業務多角化をふまえて、04年に社名から運輸を取り現在の「株式会社愛和」に改称した。

品質重視の徹底と従業員満足の上

品質重視を徹底するスタンスを外部に明示するため、各種認証・認定に積極的に挑戦するのも同社の特長の一つ。品質管理の“ISO9001：2000認証”を皮切りに、トラック部門の“安全性優良事業所認定（Gマーク）”や“グリーン経営認証”の取得、バス部門では“貸切バス事業者安全性評価認定”を県内で初取得した。

「取得には時間も費用もかかったが、真面目に事業に取り組んでいることをお客様にわかりやすくお伝えし安心して頂ける効果と、従業員に安心感を与えられる効果は大きい」と萬喜社長はその狙いを説明する。

また、従業員が安心感を持って長く勤務できる環境を作るのが経営者の務めとの考えから、従業員満足の上も重視している。例えば本人のやる気と健康面等の要件を満たす場合、65歳の定年をこえた継続雇用も実施。トラック運転が肉体的に厳しければタクシー業務に転属させるなど、会社全体で融通の利く勤務環境を作ることで、業界の中でも高い従業員定着率を誇っているという。

清潔さと身だしなみが会社の命運を握る

「車両や従業員に対するお客様の第一印象は、会社の命運を握るくらい重要」というのも萬喜社長の信念だ。最新型のバスやトラックは、こまめな清掃で内外装とも常に清潔を保つ。従業員にはヒゲを生やしたり髪を派手に染めたりすることを

禁止し、元気な声での挨拶を徹底させている。「お客様の大切な身体や荷物をお預かりするからには、車も人も常に清潔な状態を保つのが当然。この方針が嫌なら無理して勤めてもらわなくてもよい」と萬喜社長は言い切る。

こうした方針が取引に結実した例の一つが、在阪テレビ局の人気バラエティ番組への同社バスの起用。最後部席で芸能人がインタビューを受ける人気コーナーで使用されている車両が、数社競合の末選ばれた同社の最新バスなのだという。



人気バラエティ番組でも使用されている同社の最新バス。運転手も同社社員であり、清潔感に加え安全性や信頼性も高く評価された。

地域へ恩返しするための努力と挑戦

「当社をここまで育ててくださった地域の皆様へ恩返ししたい」が萬喜社長の口癖。地域の足になることを目標とした各運送事業での貢献はもちろんのこと、奈良への観光客を増やすために旅行業子会社『株式会社コンパス』を設立し遠方からの集客に力を入れる等、地域貢献にかける思いは深い。また13年には「やまと西和ロータリークラブ」の会長に選出され、奈良中央運輸事業協同組合の副理事長も務めるなど、地域貢献につながる公職もできる限り引き受けている。

「いいお客様や従業員に恵まれいろんな人に助けられてここまで来られた」。物事は決して悲観的に考えず、常に前を向いてあきらめずに歩んできたという萬喜社長。今後も「何でも安心して任せられる」と地域の顧客から信頼される会社を目指し、たゆまぬ努力と挑戦を続ける。

(吉村謙一、橋本公秀)